

いたやなぎ 町議会だより

平成30年
9月定例会

第19号
2018. 11. 9

主な内容

- 4人が一般質問 P2～5
- 決算特別委員会審査 P6～7
- 研修等報告他 P8～9

おらほぢの自慢!

～文化と浪漫～

極柳文化財指定17号 海童神社 赤穂ゆかりの御神輿 (表町)

町民の声を町政に

第11回定例会一般質問

第11回板柳町議会定例会が9月3日から19日までの日程で開催されました。9月5日に行われた「一般質問」に、4名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、一人1ページ相当の文章量までとし、質問と答弁が要約してあります。臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

りんご黒星病の生産者への対応



三戸 玲子

問

今年、黒星病の影響で、薬を例年より多くかけている。農家の頑張りによって、平年作まで回復したと報道されているが、台風により、例年より生産量は落ちるのではないかと私は考えている。昨年は496万円ほど黒星病防除対策として補助金を出している。りんごの里日本一を目指す町としては、黒星病が多発した今年、農家の方の意欲を失わせないために、どのようなことを町長は考えているのか。

答

(成田町長)

当町においても、予想以上に多くの園地において、リンゴ黒星病の被害が確認された。町ではこれまで数回にわたりチラシ等により

注意喚起をするとともに、農家の方に徹底した防除対策の指導をしてきた。しかし、それを上回る勢いで被害が広がっている。このことから、津軽地域の市町村が一体となり、国及び県に対してその対策を要望してきた。

薬剤散布の増加により、農家の方の負担も大きくなっていて、今後国及び県の動向、対策を注視しながら、県などが発表する防除指針等を踏まえて対応を進めていきたい。

火葬場の使用回数及び料金



問

火葬場の使用状況について、町内、町外の比率はどのようになっているのか。また、料金はどのような設定になっているのか。

答

(成田町長)

平成29年度では町内が

205件、町外が67件、合わせて272件となり、比率は町内が75.4%、町外が24.6%となっている。

また、使用料については13歳以上の町民の方は5,000円、町民以外の方は2万円となっている。

問

弘前市では、市外の人たちが利用した場合にいくらか徴収しているか。

答

(小松原町民生活課長)

弘前市民以外の使用料は、3万円である。西北五管内では、中泊町が1万5,000円、板柳町、鶴田町、深浦町が2万円、五所川原市、つがる市が2万5,000円、鱈ヶ沢町が3万円となっている。

問

多くの人が利用することとで釜の劣化が進むわけだが、町外の方が利用する場合、今の2万円よりも1万円ぐらい高く徴収すべきと思っている。町長はどのように考えているのか。

答

(成田町長)

施設が劣化して経費も膨らんでいる。近隣の市町村の状況等をさらに精査して、今後検討していきたいと考えている。

学校のブロック塀

問

大阪北部地震で、女の子が通学途中にブロック塀倒壊により亡くなるという痛ましい事故があった。当町では、通学路にブロック塀などの危険な箇所があったのか。また、その対応を今後どのように考えているのか。

答

(永澤教育長)

ブロック塀を有する学校は、板柳中学校、南小学校、小阿弥小学校の3校となっている。さきに点検を行ったところ、板柳中学校と南小学校の2校のブロック塀は、高さが1.2メートル以上で控え壁がなく、安全性に問題があることから撤去した。なお、小阿弥小学校のブロック塀は、安全性が確保されていた。





松森 俊逸

人口減少が進む 中での町づくり

問 国立社会保障・人口問題研究所が示す当町の人口見通しを2040年には9,084人、2050年には7,281人になると予測しているが、そのような事態に備えて町が主体的にどのような施策を実施および予定しているか。

(成田町長)

答 平成27年に策定した板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略において、産業振興対策、定住促進対策、子育て支援対策、町民の健康づくり対策と、4つの政策分野を設けており、現在各種事業を展開している。例えば若い世代の定住を狙いとして、子育て世帯定住サポート事業や子育て住宅取得補助金、新婚生活家賃

補助金などを創設したほか、子供の医療費無料化を中学生まで拡大するなど、子育て世帯や新婚世帯への支援を拡充している。

収入保険

問 収入保険制度(※)が来年1月から始まるが、農業者に対してどのようなサポートをしているのか。

(成田町長)

答 事業の周知のためのチラシの配布や広報紙掲載を始め、共済組合においては、各農業団体の会合などの機会を捉えながら概要説明を行ってきた。また、青色申告が加入条件の一つになっているので、町において、青色申告の導入に向けた講習会等を随時開催してきた。

学童保育

問 学童保育に係る職員基準の緩和が検討されているが、どのように考えるか。

(成田町長)

答 国の基準に従い、おおむね40人以内に2人以上の職員を配置している。今後

学童保育の職員基準が緩和された場合においては、その内容を確認しながら学童保育サービスが低下しないよう努めていきたい。

常盤町踏切拡幅

問 本事業において用地買収等の対象となる地権者総数と事前調査時における協力地権者、非協力地権者、その他はどのようになっているか。

(成田町長)

答 地権者総数は22名であり、事前調査結果については、協力地権者が15名、非協力地権者が1名、相続登記未了などを含むその他が6名となっている。

問 県が既に行っている設計の歩道部はどのようなになっているのか。

(成田町長)

答 平成16年3月に行った詳細設計では、道路の左右両側を用地買収する計画となっていて、幅員が10メートルで、うち車道部が7.5メートル、道路右側の歩道部が2.5メートルと設計されている。

板柳中学校の 制服販売

問 販売方法等はどのように変わるのか。

(永澤教育長)

答 新年度において、男子の制服は市販の標準学生服に変更することになり、集中受付で販売されている学生服に限らず、保護者が買い求めやすい方法で購入していただくことになる。女子の制服は標準服がないため、すぐの変更は難しく、例年どおりの集中受付による販売となるが、改善の方向で進めたい。

町内小中学校の 私会計

問 学校給食費等を扱う私会計はどの程度あるのか。私会計を公会計化すべきと考えるか。

(永澤教育長)

答 小学校は平均で1校当たり10私会計程度あり、中学校は17私会計ある。学校現場でなければ十分に把握したい会計が非常に多い。今後は学校と協議

し、私会計が公会計に移行することによるメリットやデメリット等を調査しながら対応していきたい。

板柳町立小学校 適正規模・適正配置 等に関する報告書

問 板柳町立小学校適正規模・適正配置等に関する報告書が平成26年3月に議会報告され、1校統合および小中一貫教育が了承されたが、どのような所感をもって進めたいと考えるか。

(永澤教育長)

答 児童の社会性を育てるとともに、児童の個性の伸長を図る教育環境の実現を図るため、可能な限り早めに小学校1校への統合が望ましいと考えている。また、板柳中学校も、将来的に同じ敷地内に統合小学校の建設が可能となるよう配置計画をしている。なお、小中一貫教育については、小中学校が同じ敷地内に建設される、一貫性のある教育目標の具現化を目指して工夫を凝らした教育活動を展開することで、板柳町の人づくりの新たな出発点というものを考えていきたい。

(※) 収入保険制度：自然災害や農産物の価格の低下などで、売上が減少した場合に、その減少分の一部を補償する保険制度。



成田 肇

成田町長の決意

問 平成27年、成田町長は町民に対し、人口減少

対策では子育て支援対策・定住促進対策、農業・商工業振興対策では地域活性化対策、町民の健康づくりでは平均寿命・健康寿命の延伸、高齢者福祉の充実では地域包括ケア体制の推進、次世代を担う人づくりでは人材育成と、意欲的な公約を掲げ、より豊かに、より快適に、より元氣なりんごの里板柳を目指し立候補され、見事当選された。しかし、公約実現のためには、成田町長自身の思いを短期間では十分に施策展開につなげていくことがなかなかできなかつたのではないかと思う。これまでの政治行政における経験やネットワークを生かし、引き続き強いリー

ダーシップを発揮していただくとともに、これまで以上に行政改革の成果を踏まえ、成田町長の政治家としての思いに基づく創造性ある施策を町民の目線になって積極的に実行していただきたいと思う。そこで、町長選立候補について、成田町長の決意のほどをお伺いしたい。

答 (成田町長)

町民の誰もが板柳に住んで良かったと実感していただける、より豊かで快適な、そしてより元氣で魅力のあるりんごの里板柳を目指し、町政運営に取り組んできた。公約の実現に向けて、議員の皆様のご理解とご協力をいただきながら、全身全霊を傾けて町政運営に取り組んできた。人口減少や高齢化の対応は待ったなしの状況にあり、町の大きな課題である。町では、平成27年に板柳町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少問題を始め、町が抱えるさまざまな課題解決に向けて懸命に取り組んでいるところである。これらの取り組みを来年の任期までしっかりと果していくことが第一と考えている。次期選挙への対応については今後後援会やこれまで支えてくれた方々にご相談し、ご意見をいただきながら決めていきたいと考えており、しかるべき時期にお話をさせていただきたいと思うので、ご理解のほどお願いしたい。



健康相談



健康宣言



りんごまるかじりリレー



イルミネーション

議会を傍聴しませんか

次の定例会は12月です

<議会日程のお知らせ(予定)>

月日		内 容
12月3日(月)	本会議	特別委員会報告等、提案理由の説明
12月5日(水)	本会議	一般質問
12月6日(木)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
12月7日(金)	本会議	委員長報告等、質疑、討論、採決

※開催時間はいずれも午前10時です。

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。





町の所有バスの有効利用

問 行政バスには福祉バス、研修バスがあり、平成29年度利用実働日数は、どちらでも約100日余りの稼働となっている。我が町では各小学校での団体スポーツの単独結成が困難になってきており、合同チームによる結成がされている。日々の練習は小学校の学区を越えて、練習場まで移動する子供たちも多数いる現状は、団体スポーツのみならず他分野でも今後の課題ともなり得る。そこで、行政バスが放課後に各小学校を回り、練習場まで移動のサポートをするといった有効活用ができないものか。

答 (成田町長) 屋外部活動の盛んな夏の時期は各団体からの研修

などの申し込みも多く、8割から9割の日程が予約で埋まっている。研修自体の終了も16時を過ぎるものが多く、子供たちの移動が想定される15時から16時の時間帯のバスの使用は難しい。しかしながら、現在南小学校野球部は小阿弥小学校と東小学校の児童を受け入れ、南小学校グラウンドや公民館野球場にて合同で練習を行っているため、児童の練習場所までの移動は父兄の対応ができないときはタクシーを使うなどの対応をしていると伺っている。町としては、行政バスでの送迎は現状では難しいもの、利用ニーズや人数を調査の上、学校とも協議を行い、よりよい方法を模索していきたいと考えている。

問 野球にかかわらず、サッカー、卓球、もしくは文化部、いろんなことが考えられる。あらゆる分野も考えて検討するという認識でよろしいか。

答 (成田町長) 野球部以外にも多くの部活があるわけなので、今後どのぐらいの需要があるのか、まずそこから始めて

いきたいと考えている。

弘前大学との連携協定事業



問 平成29年5月、弘前大学と包括連携協定を結んだ。3カ年計画で行われる協定の具体的内容は、①赤肉リンゴの栽培加工研究、②クッキングアップル(※)を中心とした栽培加工研究、③ふるさとセンター機能強化の3項目をメインとした連携、調査研究であり、これによってふるさとセンターを中心の核とし、町の活性化を目指すものだ」と認識している。今年4月、赤肉リンゴ、クッキングアップルについて、またまち歩き等を通してのふるさとセンター機能強化についての中間報告がされた。この報

告を受け、どのような展開を考えているのか。

答 (成田町長) まずは一区切りの研究成果として、担当の先生から提案をいただくと考えている。赤肉リンゴやクッキングアップルの研究はさらなるリンゴの可能性を探る内容となっている。特にクッキングアップルについては、生産者の中にも興味を持った方がいたように見受けられ、活用の事例や需要等の調査を進めるなどして、町にもたらす効果を探っていくことにしている。

ふるさとセンターの機能強化では、地域振興の拠点であるふるさとセンターを中心に交流人口の増加を目的としたソフト、ハード事業を展開し、そこから生まれ出るにぎわいを活力として地域の振興へと発展させるために、先進事例などをもとに調査研究している。今回の弘前大学との連携事業により、それぞれのテーマの研究成果として町に有益な効果が見込め、施策に反映できるような提案が出されるものと期待を大きくしている。

問 旧経済課(現産業振興課)時代も赤肉リンゴについてやっていたと思うが、これとは別物なのか。

答 (村上企画財政課長) 現在、包括連携協定においてこの研究を継続して行っている。

問 クッキングアップルについてのビジョンは。

答 (村上企画財政課長) 弘前大学にあるカルヴィル・ブラン(※)という品種を研究し、町活性化の可能性を探るものである。

問 ふるさとセンターの活性化について、コンセプトを持って進めてほしい。当然ハード面も考えなくてはいけないし、今回ふるさとセンター青柳館を一部改築工事するので、その辺をリンクさせ弘前大学に提案できないものか。大学からの報告が全てなのか。

答 (成田町長) 弘前大学の計画、意向が全てふるさとセンターの活性化につながるということはない。町独自で考えているものである。弘前大学からヒントや参考になる情報を提供していただくと考えている。

(※) クッキングアップル：酸味が強く調理に向いているリンゴ
(※) カルヴィル・ブラン：果皮が薄緑色で、果実の下部に凹凸が出て渋味や酸味、香りが強いのが特徴のフランス産のリンゴ

決算特別委員会 総括質疑

平成29年度の各会計決算を審議するため、議員全員で構成する決算特別委員会（委員長・今浩一議員／副委員長・成田陽光議員）を設置し、9月18日・19日の2日間にわたり詳細に審議しました。

数多くの質疑がありましたが、その一部を紹介します。

※平成29年度各会計決算の詳細については、広報いたやなぎ10月号に掲載されています。

◎狐森線防雪柵設置工事

■質問 長内良蔵委員

昨年完成し、スムーズに車が通行できている状態である。別の地区から防雪柵を設置して欲しいという要望があれば、設置できるのか。

▲竹内地域整備課長

要望があれば、理事者とも相談しながら対応していきたい。

◎除雪サポート活動事業

■質問 長内良蔵委員

事業の内容と実績は。

▲竹内地域整備課長

冬期間における歩行者の安全確保と住民生活の向上を目的として、町内会及びPTAへ助成金を交付している。町内会15団体とPTA1団体の合計16団体へ27万8,389円助成した。

◎イルミネーション

■質問 成田陽光副委員長

イルミネーション設置の目的及び入込み客数の実績は。イルミネーションをやったことによる効果は。

▲葛西ふるさとセンター所長

施設のイメージアップにより冬期間の来館者増加を図る、また町民の憩いの場の創出を図ることを目的としている。人数をカウントしていないが、子育て世代や若い家族連れが相当来て

いたと報告を受けている。

■質問 成田陽光副委員長

今後の施策にも反映される部分であるので、770万円を使った効果を測るべきだと感じている。また、観光客が使ったお金についても、今後は測っていくのが良いと思うかが。

▲葛西ふるさとセンター所長

ある程度数字というものをつかまえないといけないと思う。今後、人数の把握や施設の利用状況等を踏まえながら検討していきたいと思う。

◎りんごの里板柳PR

■質問 成田陽光副委員長

りんごの里板柳PR活動事業97万4,000円について、アンバサダー制度をやめて、りんご大使として振分親方が就任した。アンバサダーから振分親方に変ったことによる影響は。

▲大井総務課長

平成29年度は中野区の東北復興大祭典、東京ドームのふるさと祭りに来ていただいた。振分親方は現役引退後も大人気で、多くのお客様に来ていただいた。

■質問 成田陽光副委員長

アンバサダーは、百貨店のバイヤー等の販売に精通した方が就任してイメージがある。以前と比べてのPR効果の印象は。

▲成田町長

東京ドームのふるさと祭りでは、過去最高の売上を記録した。また、ふるさと納税をりんご大使に紹介していただき、3,200万円という大きな寄付金をいただいております、それぞれ効果は出ていると考えている。

◎マイナンバー

■質問 松森俊逸委員

マイナンバーの取得を推進させるPRが必要だと思いがいか。

▲小松原町民生活課長

取得率について、板柳町が6.6%、青森県が10.4%、国が11.6%とかなり低い状況にある。今後どのようにして利用者を増やしていくのか、国や県の動向を見守りながら進めていきたい。

◎弁護士委託料

■質問 松森俊逸委員

委託料70万3,580円の内容は。

▲大井総務課長

職員の再任用に関わる訴訟について、弁護士との委託契約を結んでいる。着手金に64万8,000円、旅費及び雑費に5万5,580円となっている。

■質問 松森俊逸委員

結審はいつの見通しか。

▲大井総務課長

弁護士からいつ結審になるかは聞いていない。

◎路線バスの維持

■質問 松森俊逸委員

路線バス維持の補助金に453万8,000円を使っているが、路線数と利用者実態、どの路線にいくらの補助を出しているか。

▲村上企画財政課長

国庫補助のない路線に対して運行される市町村で補助金を負担し合っている。該当する路線3系統に対して補助している。路線については、旧国道を通る弘前から五所川原まで向かう路線である。それがイオンを通るものと通らないもの2つ、それから弘前のバスターミナルから天長園までの行き路線と合わせて3路線ということになっている。利用者は大変少なく、5人以下のところもある。

■質問 松森俊逸委員

旧国道を弘前から五所川原まで行っている中には、板柳をただ通過する人数も入ったの5名以下である。町として方針をはっきりして、代替というのも1個人に対して難しいことだと思うが、決断すべきときではないかと思うかが。

▲成田町長

国の補助事業の対象外の路線について、地域の市町村で支えていくということなので、町だけでは判断できない事項ではあるが、今後機会があればお話しをしていく必要があると考えている。

◎ふるさとセンターアクセス

■質問 松森俊逸委員

ふるさとセンターにアクセスする道路を模索及び計画をしているとのことだが、具体的にどの辺の場所を予定しているのか。

▲成田町長

アクセス道路について、用地買収が絡んでくるので早めにルートを表示するには問題があり、委員の皆さんの意見を十分取り入れてやっていきたい。

◎ふるさと納税

■質問 北畠弘美委員

ふるさと納税の額が3,200万円まで伸びてきているが、納税システムの仕組みについて伺う。

▲田邊税務会計課長

インターネットにおけるふるさと納税支援サービスを活用した板柳町応援寄附金の受け付けを実施しており、寄附をいただいた2,000円を超える枠について、税額の控除が可能となっ

ている。応援したい地域、事業等について納税寄附者がそれぞれの地域を応援するという事業を実施している。

■質問 北畠弘美委員

返礼品に係る額と内容は、

▲田邊税務会計課長

寄付金額が3,233万3,508円で、返礼品に係る金額は、1,127万1,140円。町の特産品等を返礼品にして、町の観光物産協会や各関係する団体にご協力いただき、返礼品を出している。

■質問 北畠弘美委員

板柳町から他市町村に納税している人数と金額はいくらか。

▲田邊税務会計課長

41名、金額で232万7,000円、税額控除額108万8,125円となっている。

◎高齢者サポート

■質問 佐藤洋治委員

高齢者に対して町独自でどのくらいサポートしているか。

▲若田介護福祉課長

高齢の夫婦世帯をサポートするものはあまりないが、単身であれば、ほのぼのの事業やいきいき安心電話の貸し付けサービスを行っている。また、老人の無料入浴券、寝たきり老人等支給給付費

などがある。

■質問 佐藤洋治委員

入浴券は老人世帯だけにあげているのか。

▲若田介護福祉課長

町に住所を有する65歳以上のひとり暮らしの高齢者を対象としている。

◎子育て支援事業

■質問 佐藤洋治委員

子育て世帯定住の住宅補助金、家賃補助金というのは近隣の市町村どこでもやっていると思う。例えば、一戸建ての住宅を用意して、30年間家賃を納めた人へ、その住宅を無料で提供すれば、人が定住すると思うがいかがか。

▲成田町長

提案されたものは人口減少対策につながっていくとは思いますが、莫大な予算がかかる。慎重を期して総合的に考えたいと思う。

■質問 佐藤洋治委員

他の市町村から板柳町に来れば、1人あたり約150万円の交付税が入る計算になる。一時的にお金はかかるかもしれないが、長い目で見れば目玉になると思う。目立った対策をしてい

かないと近隣の市町村と大して差が無いと思うがいかがか。

▲成田町長

全国で実施している様々

なケースや対策を精査して、町でできることを考えていきたい。

◎商工関係補助金

■質問 松森俊逸委員

商工会補助金540万円の内訳について。また、ヒアリングや要望を受けて町の予算に反映しているのか。

▲田澤産業振興課長

経営改善普及活動推進事業に係る経費として、経営指導員を設置して相談等を行う事業、また、地域総合振興として地区内の事業者と一体となった活動に補助している。ヒアリングや要望に基づいて調整しているわけではない、毎回活動する経費の一部として補助している。

■質問 松森俊逸委員

商工費不用額170万円の内訳は。

▲田澤産業振興課長

空き店舗の関係で100万円、中小企業信用保証料補給金の関係で30万円弱、未来を変える信用保証料補給金で36万円、これらが大きい内容を占めている。

◎商店街活性化

■質問 松森俊逸委員

商店街活性化対策のため200万円から100万円程度にして、残りの100

万円で予算の組み直しをしていただいたいと思うがいかがか。

▲成田町長

町の活性化には商店街の活性化は必要不可欠である。国のほうでも活用できる補助事業があるので、商工会と話を詰めて考えていきたい。

◎国保特別会計

■質問 松森俊逸委員

国保会計の県への負担金は収納率のいい自治体は少なくなるので、収納の向上に向けて工夫してもらいたい。

▲村上副町長

収納率は県からの交付金に影響するので、収納率を上げるのが一番重要だと思っているので、力を入れていきたい。

◎農業会議負担金

■質問 成田肇委員

負担金の実績が、28年度59万円、29年度54万9,000円と変動しているが、算定方法は。

▲田澤産業振興課長

負担金の割り振りについて、基礎割、あるいは農家の戸数割、面積割などであり、面積あるいは農家の戸数等々で変動がある。

任 査 委 員 会 常 任 委 員 会 審

総務産業厚生 常任委員会

■除雪機購入
Q ふるさとセンターの除雪機140万円について、数年前に購入した除雪機は、

負荷が掛かりエンジンオイルが漏れているとの事だが、修理して使うことはできないか。

A 修理の見積もり依頼をしたところ、修理に50万円ほどかかるとのことだった。財政当局と相談して、新規購入することとなった。



■中央病院の病床数

Q 病院の許可病床を87床から80床へ減らすことについて、稼働率はどのようにしているか。

A 29年度の決算では、病床利用率は68.9%。87床を満床にするととなると、常勤医師を一人増やさないと診ることが出来ない状況にある。80床に落とすとしても、町内の診療所の後方支援という形での機能は維持できる。

■地域おこし協力隊

Q 地域おこし協力隊は現在何名いるか。また、地域おこし協力隊補助金の事業内容は何か。

A 平成29年度は2名在籍している。1名は12ヶ月間在籍しており、もう1名は2ヶ月間の在籍である。補助金について、住宅の借上料、活動に係る旅費や研修費を補助している。

■地域おこし協力隊はどのようなことをしているか。

A 板柳町以外の人、主に想定されるのは首都圏の人であるが、首都圏の方から地域へ来て様々な活動をしなから定住するという事業で

ある。内容について、自治体で異なり、当町の場合、協力隊員が地域に協力しながら、将来的に定住して、リンゴ産業を自分でやりたいという趣旨で活動している。



■徴収率

Q 徴収率が町税92.3%、固定資産税85.7%、軽自動車税93.06%と、低い数字だと感じている。徴収の仕方の見直しも考えていかなければいけないと思うがいかがか。

A 今年度、収納対策委員会をつくり、関係課で夜間徴収あるいはどのようなようにして徴収率を高めていくか検討していきたい。

福祉建設文教 常任委員会

■後期高齢者医療保険

Q 後期高齢者医療保険事業委託料45万円の事業内容は。

A 後期高齢者医療保険事業は、生活習慣病の治療を中断した方に保健師が訪問し、治療の継続を促して受診を勧める事業で、約20名の該当者がいる。受診行動適正化事業は、病院の受診回数が多すぎる方に対し指導を行い医療費の適正化を図る事業で、約10名の該当者がいる。

■側溝整備

Q 側溝の整備事業について、道路にでっぱりが出ている箇所が見受けられる。工事について、どのように進んでいくのか。

A 地元の協議会や農業組合長から連絡をもらったり、地域整備課でパトロールをしている。危険性があるものについては、確認しながら整備していきたい。

■子育て支援

Q 子育て支援センターの実績が少ないように感じる。

啓蒙活動や周知を図ることをしているか。

A 広報などを通じてPRしているが、昨年と比べて利用実績が下がっている状況なので、研究したいと思う。

■農道整備

Q 農道整備について要望があった場合、優先順位を決定する組織などはあるのか。

A 地域整備課の方で状況を見ながら対応している。要望が来たものに関して、予算要求であげているものもある。また、作業員でやるものは作業員で行ったり、町で高所作業車を貸して町内会とタイアップするケースもある。優先順位について、樹園地を優先して整備を進めている。

■あぶる使用料

Q 多目的ホールあぶるの使用料について、町内と町外の団体では使用料金が異なっている。現在、板柳高校についてはどのように扱っているか。

A 板柳高校の使用料について、卒業祝賀会のみ8割減免としている。

視察・研修レポート

全力応援!! 熱いスポーツの夏

県民体育大会(7月28日~29日)と県民駅伝競走大会(9月2日)に応援におかいました。



県民駅伝競走大会

県下町村議会 議員研修会

7月12日に、青森市リンクモア平安閣市民ホールにおいて、県下町村議会議員研修会が開催されました。

読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏を講師に、「今後の政局・政治の動きを読む」と題し、自民党総裁選挙の動向、自身の出身地秋田や家族のエピソードを交えながら、ユーモアのある講演が行われました。

(副議長 長内 良蔵)

いたやなぎ町議会だより編集特別委員会 町村議会広報研修会

10月10日に、東京都千代田区「シエーンバツハ・サポー」において、議会広報研修会が開催されました。当委員会からは、長内良蔵委員、葛西幸男委員、私副委員長の今浩一、事務局齋藤主査が参加しました。

最初の科目は「読み手に伝わる文章の書き方」です。朝日新聞メディアアプロダクション校閲事業部長の前田安正氏が講師を務めました。講義では、読み手に分かりやすい文章に着目し、句読点の打つ場所や5

W1Hを意識した文章の構成について学びました。次の科目は「デザインの力でもっと伝わる議会広報紙に」です。(株)コンセントアートディレクターの筒井美希氏が講師を務めました。内容が同じでレイアウトが異なる2種類の広報紙を比べ、どちらの紙面がわかりやすいかを選び、その理由をあげる作業を行いました。広報紙をつくる際、意図を強調するレイアウトと文字組みを意識することが重要であ

ると学びました。

最後の科目は全国コンクールの優秀賞を題材にした講義です。グラフィックデザイナーの長岡光弘氏が講師を務めました。入賞作品は、当町の広報紙よりもページ数が多く、予算等詳細にわたって掲載しており、30ページ前後の贅沢な広報紙でした。参考にできる点を少しでも取り入れ、親しみの持てる広報作りを努力したいです。

(副委員長 今 浩一)



研修会場入口



研修受講中

編集後記

赤穂ゆかりの御神輿。

赤穂藩が依頼し制作したものの、引き取りが無くなり、時の豪商、若狭屋儀兵衛が引き取り、北前船で持ち帰り、海童神社に寄贈したとされています。

今から三百年以上前のこの出来事は、遠く離れたここ板柳で、静かに時を刻みながら、後世へと引き継がれて行く事でしょう。

町の文化財として、地域の方々の努力と共に。

ミステリアスに包まれているこの御神輿は、人それぞれの想いで、歴史へのロマンを感じさせる自慢の御神輿へとなって行くものと思えます。

(副委員長 今 浩一)

【発行責任者】

議長 葛西清人

※第20号発行予定は2月8日頃です。

議会だよりへのご意見・ご感想をお聞かせください。

一目で分かる審議結果

◆第5回臨時会

議案	結果
板柳中学校改築工事請負契約について	全員可決

◆第11回定例会

議案	結果
板柳町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	全員同意
板柳町職員の特種勤務手当に関する条例の一部改正について	全員可決
板柳町病院事業の設置等に関する条例の一部改正について	全員可決
平成29年度板柳町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	全員可決
平成30年度補正予算(板柳町一般会計他4件)	全員可決
平成29年度各会計決算の認定	全員認定
平成29年度板柳町一般会計継続費精算報告書について	報告のみ
平成29年度板柳町健全化判断比率の報告について	報告のみ
平成29年度資金不足比率の報告について	報告のみ
一般財団法人板柳町産業振興公社りんごワーク研究所経営状況の報告について	報告のみ

◆第6回臨時会

議案	結果
ふるさとセンター加工場改築設計について	全員可決

開催日	会議等名
7月	5日 西北五広域福祉事務組合行政視察(～6日)
	9日 町例月出納検査(監査)
	12日 議会運営委員会
	〃 議員全員協議会(町諸案件等)
	〃 議案説明会
	〃 県下町村議会議員研修会
	18日 臨時会
	〃 議会だより編集特別委員会
	19日 県黒星病危機突破大会
	27日 議会だより編集特別委員会
30日 議会運営委員会(9月会議日程等)	
8月	2日 議会だより編集特別委員会
	6日 議案説明会
	9日 臨時会
	20日 町例月出納検査(監査)
	23日 議案説明会
	27日 西北五広域福祉事務組合議会定例会
	28日 議会運営委員会(定例会案件)

議会の動き(7月～9月)

開催日	会議等名	
7月	3日 議員全員協議会(定例会案件)	
	〃 本会議(定例会日程、町長の提案理由等)	
	5日 本会議(一般質問・4人)	
	6日 総務産業厚生常任委員会(所管事務調査)	
	〃 福祉建設文教常任委員会(所管事務調査)	
	10日 議員全員協議会	
	〃 議会運営委員会	
	9月	〃 本会議
		13日 町例月出納検査(監査)
		18日 決算特別委員会
19日 決算特別委員会		
〃 本会議(委員長報告、採決、閉会)		
〃 板柳中学校改築特別委員会		
〃 議員全員協議会		